

表2. 慶留間島の水生甲虫チェックリスト.

科名	種名
ゲンゴロウ科	リュウキュウセズゲンゴロウ <i>Copelatus oblitus</i>
	ヒメゲンゴロウ <i>Rhantus suturalis</i>
ダルマガムシ科	ダルマガムシ属の一種※ <i>Hydraena sp.</i>
ガムシ科	ヒメマルガムシ属の一種※ <i>Anacaena sp.</i>
	チビマルガムシ <i>Paracymus orientalis</i>
	コクロヒラタガムシ <i>Chasmogenus abnormalis</i>
	ミナミヒメガムシ <i>Sternolophus inconspicuus</i>
ヒラタドロムシ科	オオシママルヒラタドロムシ※ <i>Eubrianax amamiensis</i>
ヒメドロムシ科	マルナガアシドロムシ※ <i>Grouvellinus subopacus</i>
	ウエノツヤドロムシ※ <i>Urumaelmis uenoi</i>
5科	10種

和名の後の※は流水性種を示す
ヒメゲンゴロウは今回の調査では得られていない

でも良好な止水環境が存在するのか否かで記録される種数がかかなり変わってくるものと考えられる.

謝辞

本稿をまとめるにあたり, 阿嘉島および慶留間島での水辺環境について情報を提供いただいた阿嘉島在住の森内安行・憲子夫妻に厚く御礼申し上げます.

引用文献

青柳 克, 2015. 慶良間諸島阿嘉島の水生昆虫(トンボ・カメムシ・コウチュウ). 琉球の昆虫, (39): 35-40.
 青柳 克, 2018. [訂正2] 本誌第39号掲載「慶良間諸島阿嘉島の水生昆虫」の誤同定. 琉球の昆虫, (42): 125.
 東 清二・金城政勝, 1978. 阿嘉島と慶留間島の昆虫相, “沖縄県天然記念物調査シリーズ第12集 ケラマジカ実態調査報告”, 沖縄県教育委員会(編), 同委員会, 177-209.
 上手雄貴・青柳 克, 2018. 座間味島で採集した水生甲虫類. さやばねニューシリーズ, (32): 26-31.
 佐々木健志・木村正明・河村 太, 2002. COLEOPTERA コウチュウ目, “琉球列島産昆虫目録 増補改訂版”, 屋富祖昌子・金城政勝・林 正美・小濱継雄・佐々木健志・木村正明・河村 太(編), 沖縄生物学会, 157-284.

(2019年6月8日受領, 2019年8月20日受理)

【短報】奄美大島および沖縄島におけるタイワンマルガタテントウダマシの記録

タイワンマルガタテントウダマシ *Bystodes taiwanensis* Sasaji, 1970 は, 台湾で採集された4個体を基に記載された種である(Sasaji, 1970). 日本からは生川(2012)により, 沖縄県の阿嘉島において



図1. タイワンマルガタテントウダマシ (スケールバー: 1.0 mm).

FITで得られた2個体がはじめて記録されたが, その後の記録はない. 筆者は今までに記録のない鹿児島県の奄美大島および沖縄県の沖縄島において本種を採集しているため,

以下に報告する. なお, すべて筆者採集・保管である.

1 ex., 鹿児島県大島郡(奄美大島)瀬戸内町阿木名油井岳, 24. VIII. 2018; 2 exs. (図1), 沖縄県(沖縄島)国頭郡国頭村辺野喜西銘岳麓, 16. II. 2019.

いずれの個体も山地の照葉樹林内において, 大径木樹洞のスプレーイングによって採集された.

末筆ながら, 同定を確認して下さった生川展行氏(鈴鹿市)ならびに, 標本写真の撮影にご協力下さった戸田尚希氏(名古屋市)に深謝する.

引用文献

生川展行, 2012. 日本初記録のテントウムシダマシ2種. さやばねニューシリーズ, (5): 17.
 Sasaji, H., 1970. Notes on the Formosan Endomychidae, with descriptions of a new genus and several new species (Coleoptera). Etizenia, Fukui, (43): 1-18, pls. I-IV.

(中野文尊 501-3154 岐阜市岩田東 3-200)